

文教厚生常任委員会

委員会開催日 6月23日

(文責・川上茂次委員長)

未来創造館と愛称について

今回、本委員会に付託を受けた案件は、承認1件、議案12件、請願1件で、審査の結果、原案のとおり承認、可決、採択しました。

(一)は所管課名)

がん検診を受けましょう!

承認1号のうち専決第4号「平成26年度平戸市一般会計補正予算(第9号)」中、がん検診推進事業に関し、700万円の減額補正は受診者数の減少が大きな要因と考えられるが、今後どう改善していくのかとの質問に対し、がん検診キャンペーン月間の取り組み強化およびピンクリボン運動を進める団体等との連携を深めることにより受診者を増加させたいとの答弁があった。

【市民福祉部保健センター】

議案第68号「平戸市未来創造館条例の制定について」に關し、これまでの『総合情報センター』という名称にせず、『未来創造館』という希望ある名称を付けたことに対しては評価した。

一方、8月1日の開館の際に発表される「愛称」を含め、市民の立場からすると『図書館』、あるいは『公民館』であるとか呼び方が多々あつて混乱するのではないかとこの質問に対し、今の北部公民館についても『離島開発総合センター』と呼ばれるなど紛らわしさがあつた。

【教委生涯学習課】

よつて、未来創造館については愛称とセットにして一本化して通知等を行い、市民に周知を図りたいとの答弁があつた。

救急科設置される!

議案第73号「平戸市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について」に關し、平戸市民病院に新設される『救急科』にどのようなメリットがあるのかとの質問に対し、長く救急専門医をされている医師が着任し、総合的な視野で救急・外来患者に対応できるようにになったため、他の医師への負担、特に通常の診察に専念できる体制を確保できるようにすることが最大のメリットであるとの答弁あつた。



▲新設された救急科と救急専門医の鮫島志郎医師

救急科が新設されることは、今以上に救急患者に対する確かな対応が図られ、地域住民の安心にもつながることから、今後もこの環境を長く維持できるように病院局に要望した。

【病院局】

◆開会中の所管事務調査◆

「(仮称)総合情報センター」開館に向けての方向性について

調査日 5月15日
(文責・川上茂次委員長)

5月11日に県内外の司書約70人の協力を得て運び込まれた、新たに購入された約4万5千冊の図書がまたまた雑然とする中であつたが視察を行つた。

1階の図書スペースは開架室、開架書庫、談話室、録音室そして子ども向けコーナー等これまででない空間と蔵書になることが容易に分かつた。新図書館内から眺める雄大な景色は、近くは波静かな平戸港から崎方遠見公園、潮流渦巻く雷ヶ瀬戸と浮かぶ黒子島や対岸の焼罪史蹟、平戸大橋に、遠くは馬渡島等が眺望



▲視察する委員

でき、開館が待ち遠しく感じられた。あわせて2階の公民館スペースの視察を行つたが、調理室、和室(2室)、会議室(3室)が整えられ、公民館活動に支障なく耐えうる施設になったものと感じた。

新施設の愛称募集についての報告では、市内外から169件の応募があり、8人の審査委員による選考委員会において優秀作品を最終決定し、落成式の際に発表される予定とのことであつた。

これまで多くの議論を重ねた市民待望の施設であり、最後まで万全の準備で臨むよう要望した。

少子化における小中学校の今後の推計予測と在り方について

エネルギー政策について

AEDの設置状況と今後の計画について



大久保堅太議員

合併後10年がたち、これまでの児童生徒数の推移と複式学級の現状を尋ねる。

【教育長】合併当時2千500人程であつた小學生は1千500人程に、中學生は1千500人から900人程に減少しており、合併当時の6割の児童生徒数になつていいる。現在、小学校17校と中学校9校があり、うち複式学級のある小学校は9校で完全複式学級が2校である。

このように減少著しい中、学校の在り方についてどのように考えているのか。
【教育長】学校の適正規模に向けての方針策定のための検討をしており、今年度中に方針を定めたい。

本市のエネルギー政策における位置付けと方向性について尋ねる。
【市長】本市において再生可能エネルギー事業は重要な政策と位置付け、今後も風力や太陽光に加え、長崎県が進める海洋エネルギー政策や、本市で調査を計画している木質バイオマス等事業拡大に向けた取り組みを進めていきたい。

行くのに時間がかかり過ぎる地域や場所があるなど、広く市民が利用できる状況になつていない。
【総務部長】確かに常時利用できる状態にする必要がある。設置場所も距離の問題があるのも事実である。近隣市町村を参考にし、また平戸防災ネットワークと連携を図りながら検討し必要施設に設置する方向で考える。

人口減少抑制対策について



神田 全記議員

人口減少を食い止めるためには、企業誘致を期待すると同時に、平戸の産業を守る後継者や生産者を一人からしっかりと育てることで、地域や集落を守る若者が増え、人口増加

につながらると考える。そこで、この右記条例の基本的な考え方を問う。

【市長】本市における人口減少対策は喫緊の課題である。これまでも人口減少抑制強化宣言を出し、対策本部設置、施策の検討を行なってきた。今後推進していくには、市民、行政、議会の共通理解が重要であることから、条例を制定して方向性を明確にした。

今後多く多くの市民の意見と住民レベルでの意識改革を踏まえ、人口減少抑制対策に取り組む。雇用促進の進捗と今後はどうか。
【産業振興部長】工業団地の適地調査を実施し、適地があれば整備に移っていく予定。現在、製造業者を2社に絞り重点的に誘致活動を行なっている。

【市民福祉部長】子育て世帯の流出を抑制し、出生数の増加を目標に立っている。子育て世代の経済的負担の軽減が大事であり、今後は具体的な数値目標を定め、各施策に取り組む。

地域農業を支える担い手、農業人口の確保が重要である。本会議に平戸式もつかる農業実現支援事業として予算計上した。

子育て支援、子育てしやすい環境にどう取り組むのか。
【総務部長】新築および中古住宅の取得等に係る経費の一部を補助する制度を出した。また、空き家バンクを設置し、情報提供をして定住促

【総務部長】新築および中古住宅の取得等に係る経費の一部を補助する制度を出した。また、空き家バンクを設置し、情報提供をして定住促

今年度より新規就農に対する支援を積極的に展開し、一人でも多くの新規就農者を確保し、産地力の強化、農業所得の向上に取り組んでいく。

地域情報化、次の一手



近藤 芳人議員

光インターネット回線敷設を控え、情報、お金、そして人が都会に吸い上げられることなく本市に呼び込める戦略が急ぎ求められる。光回線の敷設状況を問う。

【市長】本年度、民設民営方式で整備を推進している光回線は、平戸中学校区エリアが対象であり、中心市街地が7月から申込み受け付け開始、8月以降に利用できる見込み。それ以外は2月の予定。

【市長】本年度、民設民営方式で整備を推進している光回線は、平戸中学校区エリアが対象であり、中心市街地が7月から申込み受け付け開始、8月以降に利用できる見込み。それ以外は2月の予定。

【総務部長】全体的に高速推進を図るべく、企業側が整備に前向きになるよう積極的に働きかけたい。広報紙等での周知のほか、通信業者と連携して、タブレット端末の操作研修や有益な情報共有の仕組み作り等に取り組む。個人向けのみならず、地元企業や事業主向けに「光回線活用による劇的な業務変化の可能性」を教えるセミナーや支援事業を行なって、ビジネス活用を後押しすべし。

【総務部長】取り組みたい。具体策が聞こえてこない。まずはWi-Fi環境を平戸市全域で、今以上に拡充してはどうか。特に市庁舎で使えるよう急ぐべし。

【総務部長】議員にいただいた数々の提言を踏まえ、よいものになるよう努力する。職員研修等にも取り組む。総合行政ネットワーク回線の県と市町村間の通信速度が極端に遅い。5年前から指摘している。

世界遺産登録と観光について
水産振興計画について
道路行政について



綾香 良一議員

世界遺産登録をにらんだ今後の方向性について尋ねる。

【市長】平成28年世界遺産登録を目指し、今年9

月ごろに予定されているイコエ又調査に向けて国や県等と連携し、取り組みを加速したい。世界遺産登録になると多くの観光客が訪れることになる。観光客の誘導の方法や春日集落を見学させる際の仕組みづくりの現状は。一方、春日地域の棚田の維持は高齢化により耕作放棄という事態も考えられるが対策は。また、外国人観光客に対する課題と対策は。

【文化観光部長】春日地域におけるおもてなしの在り方等について、住民の皆さんと勉強会を開催しているほか、景観の維持、周遊ルートの整備について効果的な事業検証を行いたい。棚田維持については、地域との意見交換を継続的に、農業振興も踏まえ、農林課と情報を共有し課題解決を図りたい。外国人受入については、観光協会等を中心に、外国人観光客を対象にした「おもてなし講座」を行なっている。また、県内の大学との連携協定を通じ、観光応援隊として各イベントにボランティア等で協力いただいている。

【産業振興部長】提案の内容をより効果的なものとするには、市や町の垣根を越えた広域的な取り組みが必要と

【建設部長】現地を精査し、費用対効果および他の要望路線との優先順位を考えた上で検討したい。

平戸海道渡海人祭会場の整備について
観光地「平戸」にふさわしい景観整備について
プレミアム商品券および空き店舗の改修補助金について



山田 能新議員

平戸海道渡海人祭の会場が雨の時、足元がぬかるみ、観光客に大変迷惑をかけている。そこで、通路や会場の整備はできないか尋ねる。

【市長】この公園の管理全体を再構築を含め、海浜公園の芝生張り替えおよび排水整備、遊歩道の路面の補修、さらには駐車スペースの確保や、展望台までのアクセス道路の陰切り等を含め、強く要望していく。

【市長】観光地平戸を訪れる観光客の方々へ、通行においての支障があつてはならないことから、道路に覆いかぶさっている木々について、市道において、市で対応する。国道・県道においては、県へ対応するよう要望していく。

【産業振興部長】次回、今回同様の交付金等が出た場合には、今回の反省を踏まえて、できる限り多くの市民の方に行き渡るような仕組み作りを行いたい。

【産業振興部長】今回は平戸市商店街空き店舗等活用促進事業補助金を使っていることから対象範囲を決めざるを得なかった。しかしながら、商店街区域以外の空き店舗の活用についても地域活性化方策の一つであると考えられるので、地域版総合戦略の中で検討する。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の登録を見据えた新たな観光戦略について



辻 賢治議員

昨年6月議会で世界遺産登録を見据え、構成資産を軸とした新たな観光戦略を構築し、他の地域に引けをとらない魅力ある観光メニューを作る

【文化観光部長】受け入れに関するさまざまな課題について、具体的な事業展開を行なっていくためには十分な時期に来ていることは十分認識している。

【文化観光部長】協議は行なっているが、具体的な設定までは至っていない。1年たつが何もできていない。他の自治体に大きく遅れをとっている。構成資産と観光名所を融合し、3時間、5時間、1日、1泊2日など、

観光客の滞在時間に合わせモデルコースを設定し、現在休止している周遊定期観光バスも取り込み、キリシタン紀行とマッチングさせてはどうか。

【文化観光部長】スピード感を持って取り組みたい。移動手段の確保は重要。周遊定期観光バスも再検討する。将来の平戸に欠かせない事業であるとの認識を持って取り組んでほしい。2次交通アクセスの計画を開きたい。また、福岡からのJRピートルの実証運航も行えないか。

「安倍法案(戦争法案)、反対は極めて無責任」と市長
四川改修と側溝整備へ、住民の声が市を動かす
市営住宅・イノシシ対策について



山崎 一洋議員

問 国会で審議中の安倍法案(戦争法案)。憲法9条を破壊する大問題が浮き彫りになってきた。衆院憲法審査会では、参考人の憲法学者3人、自

民推薦も含めて全員が安倍法案は憲法違反と批判。どの世論調査でも、政府は国民に十分説明していないという声が8割を超え、今の国会で成立させることに反対という声は6割前後に達する。アフガンとイラクに派遣された自衛隊員が帰国後、54人も自殺したことも明らかになった。安倍法案(戦争法案)についてどう考えるか。

答 【市長】抑止力がなければ戦争に巻き込まれる。抑止力など要らないという方はどつやつて国民を守るのか。この回答がでずに反対とは、極めて無責任。

問 太陽光発電事業。私の地域の森林伐採は昨年8月に始まった。伐採が始まった直後から何度も現地を足運び、住民の皆さんの話を聞き、業者の住民説明会にも毎回参加。市議会では毎回質問。

答 【市長】抑止力がなければ戦争に巻き込まれる。抑止力など要らないという方はどつやつて国民を守るのか。この回答がでずに反対とは、極めて無責任。

問 太陽光発電事業。私の地域の森林伐採は昨年8月に始まった。伐採が始まった直後から何度も現地を足運び、住民の皆さんの話を聞き、業者の住民説明会にも毎回参加。市議会では毎回質問。

答 【市長】抑止力がなければ戦争に巻き込まれる。抑止力など要らないという方はどつやつて国民を守るのか。この回答がでずに反対とは、極めて無責任。

またに調整池や側溝が完成してない。この状態で、大雨の時大丈夫か、と住民は不安だ。市と県の対策は?

答 【産業振興部長】梅雨末期を迎えるが側溝の土砂堆積に注意を払い、常に排水できる状況を整える。既存の排水路がのり面の土砂で埋まらないよう、のり尻に土のうを置く等の指示を県と行なっている。

問 太陽光発電の下流の排水対策について。昨年12月の住民説明会で、市から四川の改修を3年計画で行なうとの説

答 【建設部長】市道の側溝に年次計画的に整備する。四川は今年度から3カ年間で、約400mを整備する。

明があった。6月12日の住民説明会では、市道大垣鞍掛線の側溝整備を年次計画で行なうとの説明があった。どちらも以前からの住民の強い要望。繰り返し行なわれる住民説明会に皆さんが、粘り強く出席した成果だ。整備は間違いなく行なうか。

答 【建設部長】市道の側溝に年次計画的に整備する。四川は今年度から3カ年間で、約400mを整備する。

明があった。6月12日の住民説明会では、市道大垣鞍掛線の側溝整備を年次計画で行なうとの説明があった。どちらも以前からの住民の強い要望。繰り返し行なわれる住民説明会に皆さんが、粘り強く出席した成果だ。整備は間違いなく行なうか。

答 【建設部長】市道の側溝に年次計画的に整備する。四川は今年度から3カ年間で、約400mを整備する。

明があった。6月12日の住民説明会では、市道大垣鞍掛線の側溝整備を年次計画で行なうとの説明があった。どちらも以前からの住民の強い要望。繰り返し行なわれる住民説明会に皆さんが、粘り強く出席した成果だ。整備は間違いなく行なうか。

答 【建設部長】市道の側溝に年次計画的に整備する。四川は今年度から3カ年間で、約400mを整備する。

鞍掛山太陽光発電建設に対する住民の理解



川上 茂次議員

問 鞍掛地区の太陽光発電に関する地元住民の理解について「爾俾爾禄(なんじのほうなんじのろく) 民膏民脂(たみのこうたみのしなり) 下民易虐(かみんはしいたげやすき

も) 上天難欺(じょうてんはあざむきがたし)」は二本松城主丹羽貴弘公が城門に掲げた家臣の戒銘石であり、今風に言えば公務員の心得を論じたもの。「先憂後樂(せんゆうごらく) は北宋の范仲淹(はんちゆうえん) は民より先に民の幸せに心を砕き平穩に暮らしている民を見て楽しむことだと教えている。平戸市はCO₂排出ゼロ都市宣言を行い風力発電と共にクリーンエネルギーを推進している。

北部の鞍掛山に業者による3町歩の太陽光発電の建設に当該住民不安と不信感が払拭されていない。そこで住民の安寧のために行政はどう対処するのか。

答 【産業振興部長】本市と業者は10項目の安全協定書を締結したが地元の意見や要望を踏まえ、見直すこととして

問 建設部長「国道横断の側溝についても現地を精査したい。」

【建設部長】国道横断の側溝についても現地を精査したい。

平戸市の高齢化社会の対策と今後の取り組みについて



平石 博徳議員

問 今や高齢化社会問題については、全国的にテレビ、新聞等での報道が絶えない。高齢者を対象に悪質商法、振り込

め詐欺、医療介護とさまざまな問題が取り上げられる。平戸市の高齢化社会における対策と取り組みについて尋ねる。

答 【市長】高齢化の伸び率は、総人口の減少スピードと相まって大幅な伸びを見せている。介護を必要とする割合が高い75歳以上の後期高齢者の全人口

問 学術会議(センサシンポジウム)について、平戸市内出身の方が故郷平戸に貢献する思いで企画され、本市民間団体の強い要望でもある学術会議が前向きに検討されていると聞いているが、その概要について問う。ぜひ、実現に向けて取り組みんでいただきたい。

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

問 今年4月1日より、平戸市空き家等の適正管理条例

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

問 今年4月1日より、平戸市空き家等の適正管理条例

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

問 今年4月1日より、平戸市空き家等の適正管理条例

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

問 今年4月1日より、平戸市空き家等の適正管理条例

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

問 今年4月1日より、平戸市空き家等の適正管理条例

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

第6期介護保険事業計画について
地籍調査について
郷土芸能の維持と継承について



松尾 実議員

問 今年度は戦後70年の節目の年であるが、今日の隆盛を極められたのは、多くの先輩方の涙ぐましい努力と犠牲の上

者の方々には、しっかりと福祉の充実であり、対応でなければならぬと思うがいかがか?

答 【市長】介護保険事業計画では、高齢者が住み慣れた自宅や地域で安心して暮らしていることが出来るための総合的なまちづくりとして、介護医療、予防の専門的なサービスと在宅医療・介護連携を推進し、地域支援事業に積極的に取り組

に定める割合が、合併当初の14.45%から3.65%増の18.1%まで伸びている。今後は介護を必要としない元気な高齢者の方々をできるだけ増やす事が大切と考える。

問 学術会議(センサシンポジウム)について、平戸市内出身の方が故郷平戸に貢献する思いで企画され、本市民間団体の強い要望でもある学術会議が前向きに検討されていると聞いているが、その概要について問う。ぜひ、実現に向けて取り組みんでいただきたい。

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

問 今年4月1日より、平戸市空き家等の適正管理条例

答 【文化観光部長】このシンポジウムは、電気学会、日本機械学会、応用物理学会の3つの学会が、垣根を越えて、同一期間、同一会場で毎年開催されている日本最大級の学術会議である。

問 今年4月1日より、平戸市空き家等の適正管理条例

【市長】少子高齢化や市外への流出による人口減少に伴い、境界を特定できる人が少なくなっている。今後、県の担当部局や民間の技術者と連携をしながらスピードアップを図りたい。

問 郷土芸能の維持、継承に響が顕著であると思うがいかがか。

答 【文化観光部長】今までの制約等の撤廃を含め、地元の方々と十分協議する場を作り対応したい。